

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第6講 プロジェクトとしての研究

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 研究を完成させるのに必要なこと

1 課題

作成してきた問いと答えの表について、意見を交換する。

- 批判的に
- 細かいところの論理的整合性
- 全体的な一貫性
- 自分のもっている知識との矛盾

2 注意すべきポイント

前回資料参照

3 発表会

1/12,19 の授業では、各自の研究成果について発表をおこなう

- 発表内容についての資料を人数分 (9) 用意する (初回資料 にしたがって簡潔にまとめる)
- ペアを組み、互いに紹介する
- 紹介者から研究内容を紹介 (2分)、そのあと自由に質疑 (15分)
- 紹介者との間で事前に打ち合わせしておくこと。集まるのが望ましいが、できない場合はメール連絡等でもよい
- ペアと発表日は今日決定

4 口頭試問

授業最終週に、ペアで口頭試問をおこなう。1人15分程度。時間と場所はペアごとに決める。

発表会の時の資料から改訂した部分がある場合は、改訂後の資料を持ってくること。試問ではいろいろなことを聞かれる可能性があるため、参照する可能性のある資料を準備しておくこと。

口頭試問の際に提出された資料が、レポート確定版として成績評価の対象になる。

5 プロジェクトとしての研究

Project: 有期性と独自性という2つの特徴を持つ業務。「有期性」とは、明確な始まりと明確な終わりがあること、「独自性」とは、これまでにない新しい何かを創出する新規性があること。(花岡編, 2012, pp. 1-2)

通常は、企業の中でチームを組んでおこなわれる一連の仕事を指すことが多い。この場合は、人員や予算の制約がプロジェクトの管理の上で重要となる。

学生がひとりでおこなう研究の場合は、このような制約はあまり重要ではない。それよりも、自分の使える時間・体力・知識を正確に把握して、余裕をもって計画を立てる(進行状況を見て適宜修正する)ことが必要になる。

【課題2】この授業の結果報告(1/12, 19)に向けてやらなければならないこととその時期的な見通しについて整理せよ。ガント・チャート(Gantt chart)の形で書くことを推奨するが、ほかの方法でもよい。

文献

日経BP社(2010)『実践ノート&書類術』(日経ビジネス Associe スキルアップシリーズ)日経BP社。

大島弥生・池田玲子・大場理恵子・加納なおみ・高橋淑郎・岩田夏穂(2005)『ピアで学ぶ大学生の日本語表現: プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房。

花岡伸也(編)(2012)『プロジェクトマネジメント入門』(シリーズ新しい工学2)朝倉書店。